from M

第 93 号

岸和田市教育委員会・きしわだ自然資料館

令和 7（2025）年 7 月 25 日

てこぽこさんとはくぶつかん について

竹村 望・西澤 真樹子

2024 年から、きしわだ自然資料館で福祉分野を専門とする専門員になりました、竹村望です。資格としては精神保健福祉士、社会福祉士で、普段は相談支援専門員という障害者のケアマネージャーのような仕事をしています。

福祉の専門職がどうして博物館に関わっているのか、不思議に思われるかもしれません。

私は障害があることでの社会参加のしづらさ、特に博物館へのハードルの高さを感じており、それを解消するための第一歩として、発達障害のある子どもたちと博物館をつなぐプロジェクト「てこぽこさんとはくぶつかん」という団体を立ち上げました。副代表は、同じく自然資料館専門員である共筆者の西澤です。

専門員となることをお引き受けしたのは、障害があってもなくても楽しめる博物館をつくるために、「福祉士」という名称を出していくことで、この施設が誰にとってもウェルカムな空間であると思ってもらえるのでは、と考えたからです。

具体的には、子ども向けワークショップ（自然資料館ではミニ実習やスペシャル実習と呼ばれています）を発達障害児向けにアレンジして開催し、広報や視覚支援などの空間づくりを工夫することで、参加のハードルを下げたり、どのような支援が効果的か検証したりしたいと思ったのです。

図 1. アサリのサコッシュ（参加者作品）

ただ、団体を立ち上げてすぐにコロナ禍が到来。拠点としていた大阪市立自然史博物館での実施の見通しが立たなくなってしまいました。 そのとき、ウチでやったら、と声をかけてくださったのが自然資料館さんでした。本当に感謝しています。

きしわだ自然資料館で実習する際は、午前中を「てこぽこタイム」と称した時間にあてていただいています。これは、障害をお持ちの方の参加をしやすくし、少人数でその方に合わせた対応をとるための時間です。今年 6 月 15 日のスペシャル実習「アサリのサコッシュをつくろう」（図 1）では、集中して取り組

めるよう、工作する場所を 2 ヵ所設けました。壁に向いて一人で作業できるパーソナルな机と、みんなで一緒に作業できる大きな机の 2 種類です（図 2）。私たちのワークショップでは、「おはなし」「かんさつ」「こうさく」という 3 つの流れで進むつくりにしており（図 3）、この日もフロアに色ガムテープで矢印をつけるなどの視覚支援を行いました。こうした工夫が自由にできるのが、きしわだ自然資料館のよいところです。また、いろいろなものが目に飛び込むと情報過多になって混乱しやすい発達障害児のために、実施場所を通常のミニ実習会場である 2 階の実習スペースではなく、壁で仕切れる 1 階のホールに変更してくださったり、置いてあった物品をあらかじめ片付けておいてくださったりするなど、細やかな心遣いが嬉しかったです。

発達障害児への対応は、学芸員だけでできるものではなく、アルバイトや事務の方、受付、清掃員さんなど様々な人たちの関わりが必要です。また、その対応がバラバラでないことがとても重要です。自然資料館のスタッフのみなさんは地元の方が多く、とても丁寧かつ温かい雰囲気で、規模も含めて理想的と感じることがよくあります。

学校で出会うのとは違う、「好き」でつながった仲間づくりができる空間が博物館であり、家庭と学校（職場）以外の第三の居場所といえます。福祉用語では「社会資源」とも呼ばれますが、博物館はまだ子どもたちにとって十分な社会資源にはなれていないのが現状です。障害があるから楽しめない、わからない、来られないのではなく、障害があってもその方なりの学びや楽しみを伝えられるような博物館になるために、これからも自然資料館での活動を続けていきたいと思います。私たちの活動に興味のある方はぜひ、お気軽にご連絡ください。イベント情報などをお届けします。

（たけむらのぞみ 一般社団法人てこぽこ代表、自然資料館専門員・にしざわまきこ 同副代表、自然資料館専門員）

図 2. 壁に向かって一人で作業できるパーソナルな机（上）と、みんなで作業できる大きな机（下）

図 3. おはなしコーナー（奥）と、こうさくコーナー（手前）

メールアドレス：museum.tsunagu@gmail.com
←てこぽこ公式 LINE はこちら

和泉葛城山ブナ林のこと

長谷川 智子

図．和泉葛城山ブナ林の様子

今から遡ること一世紀、大正 12（1923）年に岸和田では大きな出来事がありました。市制施行と和泉葛城山ブナ林が国の天然記念物に指定されたことです。市制施行は 11 月ですが、和泉葛城山ブナ林が天然記念物に指定されたのはその 8 ヵ月前の大正 12（1923）年 3 月 7 日でした。史蹟名勝天然紀念物保存法により天然記念物「和泉葛城山ぶな林」として指定されました。その範囲は、和泉葛城山山頂付近から大阪府側の 8 ha です。その場所は現在も文化財保護法によって一定の行為の制限が課されて保護されています。

天然記念物の名称になっているブナは、落葉性の高木で、春に花が咲き、秋には実をつけます。標高の高い山地や寒冷地に生育する日本固有種で、漢字では「橅」や「山毛欅」と表記されます。幹は白みを帯びた灰色をしており、地衣類がついてまだらになっていることがよくあります。生長すると、大きく枝を広げた優雅な樹形をしています。

では、和泉葛城山にはどれくらいブナがあるのでしょうか。指定に際して行われた調査の報告書『天然紀念物調査報告 植物之部第二輯』（大正 15（1926）年内務省発行）によると、大正 10（1911）年には目通り直径 30 cm 以上の木が 1,800 本あったとされています。しかし後年、この調査は具体的な方法が明らかでないことがわかり、実際にこの本数だったのかは疑問視されています。その後に実施された調査では、直径 30 cm 以上のブナは、昭和 30（1955）年に 327 本、昭和 46（1971）年に 225 本、昭和 57（1982）年に 229 本、平成 16（2004）年に 204 本、平成 30（2018）年に 204 本あったことが確認されています。老齢で枯れたり、台風などの自然災害で倒れたり、若木が成長して直径 30cm 以上になるなど、ブナの本数はその後も変化していると推測されるため、現在、それを確認する調査を行っています。その際には、ブナ以外の植物についても、どのような種があるのかを確認しています。いずれも、過去のデータと照らし合わせ、林内がどのように移り変わっているのかを確かめる大切な調査です。

和泉葛城山への登山経験がある方は多いと思いますが、天然記念物のブナ林がどこなのか認識されているでしょうか。山頂から見ると、和歌山県側は紀の川を眼下にして目の前には龍門山があり、また遠くには奈良県の大峰山系が望めます。足元に目を転じると、大型バスが通れるくらいの道があり、付近には木々が点在する草地が広がっています。反対側は大阪府域ですが、こちらにはまとまった林が目に入ります。これが天然記念物のブナ林です。山頂付近の府県境には 2 つの神社があります。いずれも雨乞いのお社で、大阪府側を高龗（たかおかみ）神社、和歌山県側を八大龍王社といいます。ブナ林はこれらの神社の鎮守の森として、現在の岸和田市塔原町、河合町、相川町、貝塚市蕎原、木積（五ケ庄といわれます）のみなさんにより守られてきたのです。

天然記念物指定 100 周年だった令和 5（2023）年には、この先 100 年、200 年にもわたってブナ林が存続することを願い、天然記念物の指定範囲外である和歌山県側の山頂付近にブナの苗木 3 本を植樹しました。この苗木は、平成 12（2000）年にこのブナ林内で実った種子から芽生えて大きくなったものです。八大龍王社の貝塚市寄りにありますので、登頂の際にはぜひ、立ち止まって気にかけてみてください。また、自然資料館にはブナ林の自然観察マップを置いていますので、ブナ林散策のお供にご活用ください。

（はせがわ ともこ　岸和田市教育委員会郷土文化課）

Information

●今年も自然資料館にやってきた！
電子顕微鏡・使いたい方募集中
(8 月 20 日まで)

株式会社日立ハイテクの社会活動の一環として、今年もきしわだ自然資料館に電子顕微鏡が設置されました。この電子顕微鏡は、学校の先生の教材づくりや、児童・生徒の研究に使ってもらうことをおもな目的としてお借りしているものですので、ぜひご活用ください。はじめての方には、スタッフが使い方を説明しますので、安心してお申し込みください。

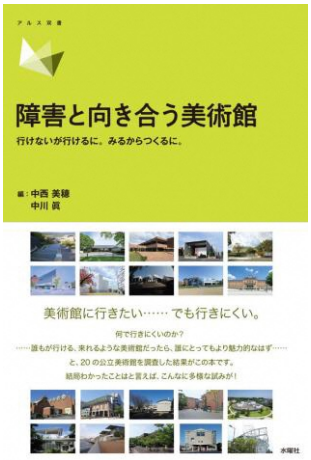
期間：2025 年 8 月 20 日（水曜日）まで
時間：午前 10 時～午後 5 時
※休館日（祝日を除く毎週月曜日と 7 月 22 日、31 日、8 月 12 日）は使用できません
場所：自然資料館 1 階ホール
申込：メール（sizen@city.kishiwada.osaka.jp）で希望をお知らせください（先着順）
費用：無料

●自然資料館のおすすめ本
障害と向き合う美術館

行けないが行けるに。みるからつくるに。

2025 年 6 月 25 日発行 水曜社(本体 3,200 円＋税)

先月発行されたばかりの新刊です。歴史系や自然史系の博物館と比べて、アウトサイダー・アートなど障害者への積極的な関わりが多いように感じる美術館ですが、その手法はさまざま。本書は日本国内の 20 の美術館を訪ね歩き、どのような取り組みが行われているのか丁寧に取材しています。美術館も博物館も動物園も植物園も、収集資料の内容に関わらず同じミュージアム。これから障害のある人とミュージアムをつないでいこうと考える人の参考になること間違いなしの本です。本号で紹介した「てこぽこさんとはくぶつかん」のインタビューも掲載されています(一般書籍に登場したのは初！)。



もちろんきしわだ自然資料館のことも出てきます！ぜひ、ご購入＆図書館へリクエストして、ご覧ください。

（西澤真樹子）

【from M】では，みなさまからのご意見，ご感想，ご質問等をお待ちしています．博物館での学習，研究等に関する情報，地域の自然環境や地誌に関する面白いトピックスなどがありましたら，ぜひご投稿ください．お名前，連絡先，所属等をご記入の上，右記の宛先までお送りください．電子メールでも受け付けています．

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5
きしわだ自然資料館
TEL:(072)423-8100
FAX:(072)423-8101
Email:sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ:
https://www.city.kishiwada.lg.jp/site/shizenshi/

※お願い　[fromM]は，学校教職員に１部ずつお配りください．
担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが，よろしくお願い申し上げます．